

会員各位

協会だよりー277(1月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2016年年頭の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

会員各社の皆様並びに関係各位におかれましては、健やかに新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、当協会にとって創立40周年の節目の年となり、11月に開催された記念祝賀会には、経済産業省製造産業局化学課や非鉄金属課、触媒工業協会、そして会員各社や協会OBの皆様など多くの方々にお集まりいただき、とても有意義な式典となりました。



触媒資源化協会
会長 三浦 章*

多くの皆様に支えられて当協会が発展を続けてこられたことに、改めて感謝を申し上げますと共に、新春の風に凛とした気持ちで、当協会の更なる発展に向けて取り組んで参りたいと存じます。

さて、ご承知の通り、私達を取り巻く環境は、日々目まぐるしく変化しています。

これまで世界経済を牽引してきた中国の成長減速、それに起因する資源需要の鈍化、原油や資源価格の下落・低迷、さらには9年半ぶりの米国の金利引上げ、新興国の成長減速懸念、さらにはテロなどによる地政学的リスクの高まり等々、世界経済への不安はつきません。緩やかながらも経済回復への兆しに期待していた1年前とは様変わりの感があります。

当協会の会員各社にとっても、厳しい環境が続いています。

近年の国内リサイクル原料の発生減や有価金属品位の低下に加え、貴金属・レアメタル等の資源価格の下落は、リサイクル事業にボディブローのようにダメージを与えつつあります。

一方で、資源に乏しい我が国にとって、資源循環の社会的意義は、益々大きくな

っています。「IoT(Internet of things)」の動きも加速しており、近い将来、パソコンやスマートフォンに限らず家電や自動車などあらゆるモノとモノとがインターネットで結ばれる時代がやってこようとしています。それらに内蔵されているセンサー、コンピューター、通信部品には貴金属やレアメタルなどが含有されています。このような社会の変化に伴い、新たな資源リサイクルのニーズも高まってくるものと思われます。

資源循環への取組みによる社会貢献と、現在の厳しい環境下でのリサイクル事業の両立。これが当協会の大きな課題のひとつです。

会員各社の努力はもとより、経済産業省を始めとする関係当局や触媒工業協会など関係諸団体との情報共有や連携を深めることが大切です。

当協会としても、いろいろな機会を通じて、会員各社の声を伝えるとともに、関係当局からの資源循環に関するご要請にも、微力ながら積極的に取り組んで参りたいと思います。会員各社の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

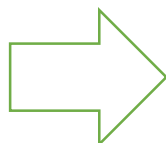
厳しい時だからこそ、将来の展望を見失うことなく、明るく元気に活動して参りましょう。

結びに、会員各社の益々の発展と、関係各位並びにご家族のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、年頭に当たっての言葉と致します。

※ J X 金属株式会社 取締役 常務執行役員 環境リサイクル事業本部長

平成 27 年（2015）

平成 28 年（2016）



トピックス：

- 第227回月例会（講演会・新年会）の開催
日時：平成28年2月4日（木）15時00分～20時00分
場所：如水会館
講演：1. 福岡 淳氏（北海道大学教授）
「北海道大学が開発した新プラチナ触媒」
2. 和田 元氏（東京大学教授）
「植物が行う光合成とそれを利用した物質生産について」
- 2015年度の会員・資源化実績の報告を1月29日（金）までに提出してください。



東名富士CCより眺める富士山

- 二〇一六年年頭の挨拶
- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
 - 二. 会員会社の異動
【予定事項】
 - 三. 事務局より（二月度の予定）
 - 四. 【雑学】知られざる鶴岡八幡宮（？）

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー276（12月号）をメール&郵便で送信（12／1）
- ② 2015年（1月～12月）の会員各社資源化実績報告依頼の発送（12／16）
- ③ 第七回運営委員会の開催

日時：平成27年12月17日（木）16：00～17：00

場所：堺化学工業㈱東京支店会議室

出席：運営委員、第227回月例会幹事、専務理事

【予定事項】

- ① 経済産業省・化学課訪問、会長と専務理事（会長と相談の上）
- ② 第33回JSCRA会（協会ゴルフコンペ）のご案内（1／下旬予定）

開催日：平成28年4月上旬（大藤さんと相談の上決定）

コース：多摩カントリークラブ（東京都稲城市坂浜 3360）

備考：4組 予約予定

幹事：㈱徳力本店、協会事務局

③ 第八回運営委員会の開催

日時：平成27年1月21日(木) 16:00～17:00

場所：堺化学工業㈱東京支店会議室

出席：運営委員、第227回月例会幹事、専務理事

③ 2015年度資源化実績の報告提出の期限

2月中旬には調査・技術委員会を開催し討議、編集業務に入りますので 1月29日(金)までの報告にご協力をお願い申し上げます。

④ 第227回月例会(講演会・新年会)

日時：平成27年2月4日(木曜日) 15:00～20:00

会 場：如水会館(千代田区一ツ橋2-1-1)

講 演：1. 福岡 淳氏(北海道大学教授)

2. 和田 元氏(東京大学教授)

新年会：講演会終了後、17:30より別室にて立食の新年会を開催いたします。

2. 会員会社の異動

● キンキメタル産業株式会社

平成27年10月29日、代表取締役社長 堀内 昇様が永眠されました。

故 堀内 昇様の後任に 堀内照弘さんが代表取締役社長に就任されました。

● 株式会社アサカ理研

平成27年12月18日の定時株主総会で代表取締役社長が選出されました。

(前) 野納 敏展殿 ⇒ (新) 山田 慶太殿

● 会社名の変更(平成28年1月1日付)

JX日鉱日石金属株式会社 ⇒ JX金属株式会社

● 協会担当者の変更

三菱マテリアル株式会社

(前) 室 隆昭さん ⇒ (新) 小林 幸平さん(平成28年1月1日付)

室さんが三菱マテリアルグループ・マテリアルエコリファイン㈱へ移動され、後任として小林さんが協会担当となりました。

3. 事務局より(1月度の予定) 出勤予定：11日間、赤・個人予定あり。

日	月	火	水	木	金	土
3	4	5	6	7	8	9
×	×	○	○	×	○	×
10	11	12	13	14	15	16
×	成人の日	○	×(C)	×(G)	○	×
17	18	19	20	21	22	23
×	×(G)	○	○	運営委員会	○	×
24	25	26	27	28	29	30
×(W)	×	○	×	×	○	×(C)
31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6
×(C)	×	○	○	227月例会	○	×

4. 【雑学】知られざる鶴岡八幡宮（?）

12月12日（土）、最近やっと会員に承認された「歴史を楽しむ歩く会」の企画で、鎌倉の鶴岡八幡宮の境内のごく近くにあるマイナーな神社、寺院等、歴史施設を巡る会が催され参加しました。集合地のJR鎌倉駅前には、我がグループと同様な老人グループが屯しており、自分たちのグループと見分けが付かないほど集まっています。やっと見慣れた顔を見て一安心、今回のグループの参加者は総計49名とのことで吃驚です。



ＪＲ鎌倉駅前の混雑と若宮大路に面する大店舗
「鳩サブレ」の豊島屋



いざ出発、何と49名が一行縦隊なると100メートルにもなります。前後や中間に黄色い旗を持ったリーダーが着いていますが、若宮大路を鶴岡八幡宮目指して約1キロ黙々と歩くのみです。途中、鳩サブレで有名な豊島屋の大きな店舗が目につきます。八幡宮に着くと、神前結婚式を終えた大グループが参道を占拠しています。本日は何組もの神前結婚式が控えているとのこと、一般の観光客や修学旅行生も交じりごった返しています。

鶴岡八幡宮と言え、前九年の役に勝利した源頼義が康平6（1063）年、鎌倉に帰り、源氏の氏神として出陣に際してご加護を祈願した京都の石清水八幡宮を由比ガ浜辺にお祀りしたのが始まりと言われています。源氏再興の旗揚げをした源頼朝が治承4（1180）

年由比ガ浜辺の八幡宮を現在の地に遷宮したことから、鎌倉幕府の創始者・源頼朝が中心人物と言えましょう。西行さんが奥州に向かう途中、頼朝さんと夜を徹して会談し、土産にもらった銀の子猫の置物を、帰り際に外で遊んでいた子供（童子）にやってしまったとの伝説を聞いて、昨年11月25日、芭蕉さんの追っかけの旅「笈の小文」で渥美半島・伊良湖から二見が浦・伊勢神宮・桑名を旅した時の伊良湖にあった歌碑を思い出しました。



太鼓橋より本宮を望む

芭蕉さんは常に西行さんの追っかけをしていたので、ほぼ同じ場所に二人の史跡があるでしょう。その歌碑を紹介しましょう。

《西行の歌碑》西行さんの歌碑は「道の駅伊良湖クリスタルポルト」より 100m 程の場所にあり、その側の地上には、ここに着いたんだよ！という草鞋の足跡と文言を付けた鋳物の鋳造版が置かれています。文治二年、西行さんは東大寺再建の勧進（大仏さんの鍍金のための藤原氏へ砂金の寄進を要請）のため、二見が浦よりこの伊良湖に船で渡り奥州・平泉へと旅立ちました。奥州への旅の途中、鎌倉に立ち寄り、頼朝と会いました。



浪もなし伊良湖が崎にこぎ出て
われからつけるわかめかれ海士
(山家集 補遺 夫木抄に収録)

《祖霊社》鎌倉市雪ノ下一丁目

流鏝馬の馬場を横切り舞殿の手前に入ると、たった 50m なのに、人気を感じないほど静寂な場所となります。そこには歴代宮司を始め約 750 柱の氏子崇敬者の御霊がお祀りされています。(八幡宮のHPより) 鶴岡八幡宮の神官は本宮に参る前に毎日祖霊社に朝一番に参るそうです。



《円応寺》鎌倉市山ノ内 1543

私たちは一度、八幡宮の境内を出て、県立近代美術館別館を左に見ながら、巨福呂坂を上ります。円応寺手前の切通には落石除けの巨福呂坂洞門が設けられています。洞門を過ぎると、閻魔大王を祀った円応寺の石段が左手に現れます。向い側には建長寺が。

まずは、亡者が冥界で出会う「十王」閻魔大王にご対面です。ここは新居山円応寺といい十

王の像を祀っているので「十王堂」とも俗称されています。臨済宗で建長寺の末寺です。



巨福呂坂の洞門を行く一行 2015.12.12



円応寺入口の看板の閻魔様 2015.12.12

拝観後、巨福呂坂を戻り、二十五坊跡と鶴岡文庫（図書館）に立ち寄ります。何故雪ノ下の地名が？と思いますが、鶴岡八幡宮の本殿後ろ側一帯は鎌倉時代以来、雪屋（氷室）が置かれて遠くは富士山の氷も運ばれ夏場のために貯えられていたことに由来しているそうです。鶴岡文庫は八幡宮所蔵の古文書や鎌倉の歴史や文化に関する資料が収蔵されていますが、私たちは、その一階にある鶴岡八幡宮が最盛期のジオラマの見学が主体でしたが。



2015.12.12



2015.12.12

二十五坊が有ったという石碑と鶴岡文庫。二十五坊とは鶴岡八幡宮の社役を務める供僧達の僧坊で、二十五坊が成立したのは建久8（1197）年頃と言われています。

鶴岡文庫のわき道を通り裏手を登ると、今宮（新宮神社）があります。

《新宮神社》鎌倉市雪ノ下2丁目

後鳥羽、土御門、順徳の三天皇が祭神です。三代將軍・源実朝亡き後、政務は頼朝の正室・北条政子が代行し、政子の弟である北条義時が補佐する体制が作られました。四代目の將軍を皇族から迎えたい幕府、將軍のレベルを落とした朝廷、双方諸々の葛藤もあり、後鳥羽上皇が北条義時を追討する院宣を発し討幕の兵を挙げました。承久（1221）年、この朝廷側と鎌倉



幕府の戦いが承久の乱と言われています。日本史上初めて、朝廷の勅や院宣に逆らう軍事行動によって朝廷に反乱軍が勝利した事件と言われています。戦後処理として首謀者である後鳥羽上皇は隠岐島、順徳上皇は佐渡島にそれぞれ配流されました。討幕計画に反対していた土御門上皇は自ら望んで土佐国へ配流され、後に阿波国へ移されました。北条政権にとって戦った相手の霊を鎮める神社の創立は？

いろいろな天変地変が起たり、不幸なことが起ると怨霊のせいと思いますよね。菅原道真の霊を祀る大宰府天満宮の例もあります。北条一族も後鳥羽院の怨霊を鎮めるため宝治元（1247）年、今宮を鶴岡八幡宮後方の東谷に創建しました。



本宮に戻って参拝した後、私たちは昼食タイムとなります。本宮下の舞殿では次々と結婚式の神事が行われ、式に参列の若者で一杯です。参道には蕎麦屋を始めお食事処が目白押しですが、私は弁当持参のため、食事場所を探さなければ！休憩所も持ち込みご遠慮を！と有り幸いに源氏池周りには、石のベンチもあって家族連れが屯しており、私もその仲間になり食事となりました。池の周りの紅葉も素晴らしく。





源氏池の中島にある旗上弁財天社の奥に鎮座する政子石。夫婦円満の祈願石で姫石とも呼ばれています。柵で囲われているため私の手では石に届きませんが。



白旗神社の手前の庭には実朝公をいたんだ裸馬*の句碑があります。

*菅裸馬（本名 菅礼之助 1883-1971）は、秋田県雄勝郡（現湯沢市）の生まれ。東京高等商業高校（現一橋大学）を卒業後、古河鉱業へ入社。俳句の世界では昭和24年に関西俳壇の青木月斗の後を継いで、俳句結社「同人」の二代目主宰となった。古河を辞めた後、政財界では、吉田茂内閣の石炭庁長官、東京電力会長、経団連評議会議長などを務めた。「日本相撲協会運営審議会会長」を努めるなど相撲界との縁も長く、文化面では源実朝の研究家としても知られた。

《白旗神社》

本宮の右手奥にひっそりと鎮座している白旗神社には源頼朝公、源実朝公がお祀りされています。源氏は白旗、平家は赤旗より命名されたものと思われます。

近代以降は交戦停止や降伏の印に用いられるのが白旗ですが。祭神の御神徳にあやかり必勝や学業成就の信仰があつい神社と言われています。

《やぶさめ馬場と鶴岡研修道場》



参道を直角に横切る流鏝馬馬場



鶴岡研修道場

八幡宮の流鏝馬は4月と9月の中旬に行われ、馬場にはその時に限り砂利がひかれ（参道との十字路は石畳で馬には危険場所）、疾走する馬の脚が滑らないようにするそうです。東鳥居の傍にある鶴岡研修道場とは？研修道場の中をそつとのぞいてみると何とそこには木馬が置かれ、それに乗って手綱を取りながら弓矢の練習をしています。木馬の首は上下に動いています。ここは流鏝馬のための研修道場でした。その脇にある鎌倉国宝館は現在休館中となっています。今日のマイナーな歴史探訪はここで解散となる！



左の写真は10月25日（日）に行われた町田市時代祭りでのイベントとしての流鏝馬です。場所は町田市立芹が谷公園で撮影した写真です。八幡宮の馬場ではありませんが参考に。

記：小林 尚道

【文責：専務理事】